

武徳薫千載

— 剣道と科学技術に尽くした百年 —

〈武安義光追想集〉

剣道界、科学技術界に貢献した その大きな人物を語り尽くす

科学技術界に大きな足跡を遺し、剣道界を牽引した武安義光は、大正から令和までの百年を見事に生き抜いた（令和3年2月28日逝去）。発足間もない科学技術庁に勤務し黎明期の原子力行政に深く関わるなど、科学技術行政の整備と進展に力を揮い、平成9年に全日本剣道連盟会長に就任すると、さまざまな改革を実行し退任する平成25年まで国内外の剣道の普及発展に大きな功績を遺した。

本書は剣道と科学技術、双方の分野で武安氏の薫陶を受けた人々が筆を執り、その功績や人物、思い出を語り尽くした一冊である。

称号・段位審査制度の改正、剣道の国際普及などの功績、稽古ぶりや旧制高専大会での奮闘など一剣道愛好者としての顔、日本刀と竹刀についての信念、行政官として特殊法人の運営に腐心した姿、他の官庁との人的交流を推進した一面、さらには登山、ジョギングや民謡、観劇などの幅広い趣味、妻や家族に見せた姿まで、武安義光という人物の持っていた幅の広さ、奥行きが深さが生き生きと描き出されている。

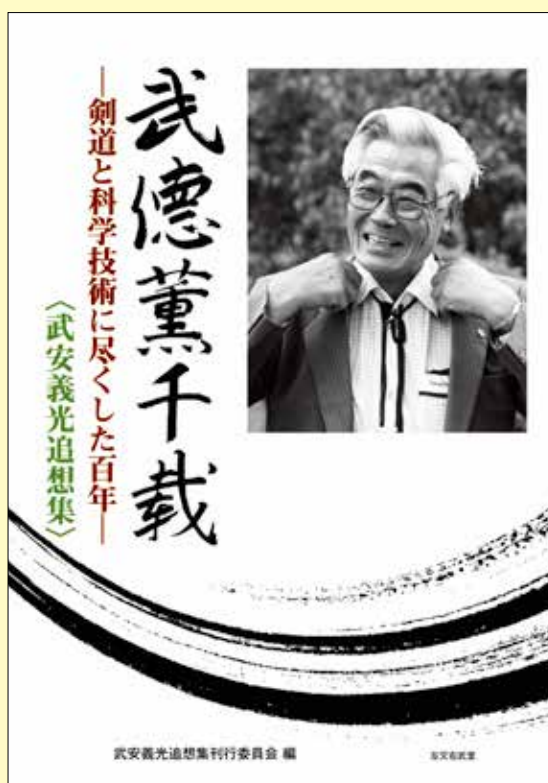
写真集、年譜、武安氏自身が執筆した文章、講演録なども収録し、あらゆる角度からその人物像を明らかにした。

■編者 武安義光追想集刊行委員会

石田寛人、真砂 威、佐藤征夫、太田健一郎、高橋 亨、喜多俊清、濱田直樹、武安弘光

■追想文執筆者（敬称略・順不同）

福本修二、網代忠宏、真砂 威、宮坂昌之、高橋 亨、青木千代子、川野雅英、青木 孝、鈴木徳之、厚母栄夫、榊 努、加治正喜、柳 雄太郎、中谷行道、稲川泰弘、豊永厚志、亀澤 優、喜多俊清、吉澤菊夫、林 信雄、田村 徹、濱田直樹、アラン・デュカルム、児島アキノリ、ディーター・ハウク、中村守孝、佐藤眞住、祝迫重明、堀内純夫、平澤 洽、石田寛人、岡崎俊雄、沖村憲樹、児玉柳太郎、高園武治、池田 要、高木喜一郎、太田健一郎、興 直孝、佐藤征夫、河野二郎、斎藤尚樹、中江利忠、武安弘光、服部敬子



本書はAmazon（アマゾン）のみで販売しています。
〔武安義光〕または「武徳薫千載」で検索して下さい。

定価：¥2,420（税込）＋送料
B5判 256 ページ並製。左文右武堂刊

“文武両道”、これからの日本を背負う
若い人たちにもお勧めします！



平成17年8月、愛知万博（愛・地球博）「XPO 剣道フェスティバル」で幼稚園児とのかかり稽古を披露（当時84歳）